



玄関ポーチは2方向から出入りできるように工夫し、来客の動きや駐車場からの動線をイメージしてカタチにした。

2P) 屋根勾配と登り梁を現した開放的な広間空間。柱や梁などの木組みが見えることで力の流れを感じ、構造体への安心感が伝わってくる。広間の床板は栗材を採用し、経年変化と共に味わいの増す素材選びをした。

左) 北側から見えている屋根上の窓は広間上部に設けたハイサイド窓。高い場所に換気用の窓を設けることで、南北の風の通り道をつくっている。赤いポスト口はアクセントに。投入すると玄関収納につながり、家の中から受け取りができて便利。



「昨年の9月に完成した『広場の家』は、田畑に囲まれた開放的な景色の広がる場所に建築されました。施主のMさんとの出会いは今から7年前の春、完成現場見学会に参加していただき、その後、私の自宅をはじめ、完成したお宅や構造現場などを何度か見ていただきました。木の家の利点や欠点を知り、また空間イメージもだんだんと膨らみながら、徐々に家づくりへと進んでいきました。何度かお会いした頃、希望に近い土地が見つかったのを見て欲しいと連絡をいただきました。奥さんに案内していただいた土地は、南に田んぼが広がる見通しの良い敷地で広さも十分、手入れのされたお隣さんの生垣もとても綺麗で良い感じの土地でしたが、一つだけ変わった条件のある土地でした。

完成現場報告
藤枝市／『広場の家』
文・写真／コロラボ 山崎健治

元気に駆けまわる
広場のある暮らし



突然ですが、「市街化調整地域」という言葉を知っていますか？ 住宅や店舗、工場などの建築を認める市街化地域に対して、農地を守るために建物の建築を規制する地域を市街化調整地域と呼びます。私たちの住む地域の周りにも多く、静岡市をはじめ、焼津市、藤枝市にも指定されています。島田市、掛川市などは未線引き地域と呼ばれ、特に制限がされていないため知らない方も多いと思いますが、市街化調整地域は一般的に住宅を建てる事が難しく、建てるためには土地や建主の条件が必要になります。今回Mさんの選んだ土地も市街化調整地域に入っており、住宅を建てる条件が必要な土地でした。一般的には昔から家が建っていた土地や、建てるための準備がされていた土地は問題なく、都市計画法の申請を経て建築が可能ですが、Mさんの選んだ土地は、道路に面した約半分の面積が建築可能な土地で、田んぼに面した南側の土地は建築してはいけない土地でした。これは少し珍しいケースではありますが、庭や家庭菜園をつくって活用する事も出来るので、建物配置を工夫していけば逆にゆとりのある計画が可能になります。一目では、どこからどこまでが建築可能な敷地かわかりませんが、現地に杭が打たれていたため、測量図をつくって確認し、要望を伺いながら計画を立てていきました。駐車場や玄関、各部屋の希望を聞きながら全体を組み立て、建築出来ない敷地には子供たちが駆け回る広場のようなスペースを計画し、敷地全体を利用したプランが出来ました。



広間、キッチン、小上がりの畳コーナーをコンパクトにまとめ、動きやすい生活動線をついている。



庭から見る外観。屋根、外壁共にコロボでは珍しい明るい色合いの外観となった。建物形状は敷地形状に合わせて考えていった。



1F 敷地平面図



広間と庭の間に設けた4帖半程のデッキスペース。休日の物干しや子供たちの遊び場など、半外空間は用途も様々で便利なスペース。



広間の窓からは抜ける景色が広がっている。恵まれた環境を生かし、開放的な毎日を送っている。



広間に設けた幅9尺の木製窓と欄間ガラス。明るさと共に心地よい風の入り口となっている。窓からは庭が一望出来、子供たちが遊んでいる様子を見ながら過ごす日常が何よりの楽しみ。

子供たちの成長を 見守る大きな窓

毎回、設計の相談をいただいた後、何度か敷地を訪れて、なるべく多くの情報を得るようにしています。時間帯や天気の違いで敷地の印象はガラッと変わり、朝日や夕日の入り方、また、雨や風の様子も想像と違うこともあります。何度か通うことで、見ているようで見えていなかった発見もあり、ちょっとした情報がプランのきっかけになることも少なくありません。

今回の計画でも何度か敷地に足を運び、周辺の環境と合わせて、風の強さや時間帯による景色の違いなどを強く感じました。特に方位と景色についてはプランを立てる時の鍵となり、建物の向きや窓の配置について様々な案を考えていきました。今回の敷地は、北側の道路に対して南側に田んぼが広がり、プライバシーと動線の両面から理想的な条件だと思いましたが、実は方位が45度程ズれているため、南だと思っていた田んぼの方向が正確には南西向きとなり、日差しや景色などを考えて、窓の向きや配置について検討していきました。

設計の中で窓は重要な要素のひとつ、特にコロボのつくる家は大きな窓がシンボルとなり、光や風と合わせて、景色と取り込む窓を重要なコンセプトとしています。断熱や気密など、家の性能と直結している

窓は室内の温度コントロールの面から見ると厄介者と考えられ、性能を重視する家では年々小さくなってきています。窓が小さくなることで家の性能はアップしますが、窓から見える景色や光の変化など、性能とは違った良さも無くなってしまいます。コロボでは、木でつくる大きな窓には雨戸や断熱性能の高いハニカムサーモスクリーンをセットで取り付け、欠点を補いながら大きな窓を提案しています。Mさんのお宅の計画も開放的な景色を取り込み、庭とひと続きになる大きな窓をつくりたいと思いました。設計の途中、方位を考えて真南に向いたプランも検討しましたが、ご主人から出た「子供たちが庭で駆け回る姿を家の中から見ていたい」という言葉が私の中で大きな一言となり、庭を一望出来る位置に木でつくる大きな窓を配置しました。窓からは広がる空や抜ける景色、そして、子供たちの姿が良く見える窓になりました。田んぼの広がる方向に向けて窓を配置したため、心地よい風が通り抜け、取材に訪れた日も窓から涼しい風が流れていました。



木と漆喰の組み合わせがつくる シンプルな空間と生活の工夫

木の家の内装はいつもシンプル。構造材である柱や梁を現し、その間の壁を漆喰で仕上げる。単純な仕組みだけど住む人が違うと空間も様々で、生活や好みでその家の雰囲気も変わってきます。家族4人の暮らすMさんのお宅、日々の暮らしぶりを伺いながら生活の一部を覗かせてもらいました。



栗の厚板を曲線で切り抜いた玄関スペース。低めの天井が落ち着いた雰囲気を出している。



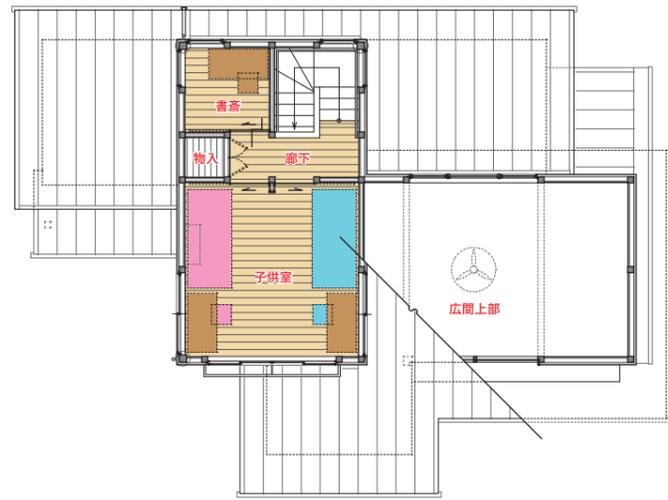
玄関と広間の入り口に設けた葛布ガラス。惜しまれつつも葛布が終了間近…今後貴重だよ！と話をしました。



ステンレス天板とタモの突き板のオリジナルキッチン。コンロを天板の中心にし、左右のスペースを作業台にした。



杉材の踏み板の階段とタモ材の階段手摺。コーナーに設けた窓から学校に行く子供の様子が見られて便利。



2F平面図

仕様内容

家族構成	4人
敷地面積	202.71m ²
建築面積	71.61m ²
延床面積	88.61m ²
構法	在来工法
屋根	ガルバリウム鋼板縦ハゼ葺き
外壁	ガルバリウム鋼板角波タテ貼、杉赤縦目板張り
外部建具	木製オリジナル建具 ナラ、タモ(ペアガラス) アルミサッシ(ペアガラス)
天井仕上	杉本実張り 厚30mm・12mm
内部仕上	青森ヒバFJ本実板張り 厚15mm
壁	漆喰塗、青森ヒバFJ本実板張り、クロス張り
床	栗本実板 厚15mm、杉本実板 厚30mm
内部建具	木製オリジナル建具 葛布ガラス入框戸
キッチン	ステンレスヘアライン天板 オリジナルキッチン
洗面化粧台	TOTO 人工大理石天板 システムJオリジナル洗面化粧台
浴室	日比野化学工業 ハーフユニットバス1坪タイプ
設計・施工	／有限会社こころ木造建築研究所
竣工	／平成28年9月



2階の子供室。ここからの眺めはとても気持ちが良い。広がる田んぼやお隣さんの桜が見れて見晴台のような部屋。



ハーフバスにヒバのガラス引戸を取り付けた。敷居にステンレスを用い耐久性を高めている。



ハーフユニットバスと青森ヒバの浴室。縦長の窓は南西向きで、風と光をたくさん取り入れてくれる。



洗面化粧台と洗濯機スペース。壁・天井共に杉板を貼り、調湿機能を高めた洗面脱衣スペースになっている。

収納と水廻りと動線

『広場の家』と名付けたMさんのお宅は、タイトル通りの広い庭を核としたプランが特徴ですが、コンパクトにまとめられた個室をはじめ、使い勝手の良い収納や水廻りもこの家の個性となっています。家づくりの中で収納をたくさん取りたいと考える方も多いと思いますが、どの場所に配置するか？ また、家族の動線に合っているか？ という事が大切で、大きな収納を2階に設けるより、小さな収納を玄関や水廻りに近い場所に配置しておくのが便利です。上着やバックなど、毎日持ち運ぶ物の場所も玄関近くのクローゼットなどに決めておくこと忙しい朝にあたふたする事もなくなります。今回の計画では、玄関近くに、1帖程度の玄関収納と3帖程のクローゼットを設けました。玄関収納には家族の靴をはじめ、外で使う物や子供たちの遊び道具などが収納され、クローゼットには上着やバック、掃除道具や季節で使う道具が収納されています。クローゼットはそのまま通り抜けする事が出来、広間をスルーして洗面室につながったり2階に上がれる動線にもなっています。家の中でぐるっと回れる動線は使いやすく、様々なシーンでスムーズに動く事が出来ます。Mさんのお宅は浴室も少し変わった位置に設けました。南側は広間や個室などを配置し、水廻りや収納は北や西側に配置する

るのが一般的ですが、日当たりと風通しの良いこの位置は、木のお風呂の場所としては最適で、日光が当たる事でカビの心配も少なくなります。また、道路面となる北側と違い、周りからの視線も遮る場所になるため、大きな窓から庭を望められる気持ちの良いお風呂になりました。洗濯機のある脱衣室の近くには屋根付きの洗濯干しの場所を設け、洗って干すという毎日の動線も無理なく行えるプランになりました。

Mさんと初めて出会ってから7年の月日が経ちました。お腹の中にお子さんも早いものでもう小学校に通っています。年が経つにつれ、家族の様子も変わり、求められる住まいの形も変化していくと思いますが、今回Mさんの建築を通して、子供の成長を楽しむ住まいを強く意識しました。子供の成長は早く、あと数年で旅立っていつてしまうかもしれません、この家で暮らした毎日が宝物となり、忘れられない楽しい記憶になってもらえると嬉しいですね。取材当日はご主人が仕事のため留守ではありましたが、「子供たちの遊ぶ姿を家の中から眺め、写真を撮るのが何よりの楽しみみたいですよ！」と奥さんが笑顔で話してくれました。その一言が聞けて、なんだかほっと気持ちになるようになりました。子供たちの成長と共に木の家も撮らしてもらい、共に思い出を刻んでもらいたいと思います。